

部屋に一人いる時、何かに没頭できない時は、いつも僕は何かを考えている。

取り留めもないことかも知れないが、それは僕の進学のこと。自分が大きくなつたら何になりたいか、僕のことだ。そして、それが実現していく様子を想像して、一人目を閉じ、ニコニコしている時がある。

僕は、京都大学に入つて、湯川博士の様に理論物理に進み、原子核とかいうもの、物質とは何かを研究したい。それなら、大学教授になれば、国からお金をもらえるので、今の様に、お金の心配もなく、また自分の好きなことを仕事にするので、人生も楽しいものだろう。

要するに人生楽しく有意義に生きること自体が目標である。目的と手段を僕ははつきり認識しているつもりだが、人生楽しく有意義に生きるとは、大学教授になつて理論物理を研究することだけではないとも感じる。

毎年、花が咲くように、僕も花を咲かせて、いずれ実を結ぶ。僕の人生も一輪の花の短い一生と何のかわりもない。

ぼくも美しい花をさかせ実を結び、きれいに生きていきたい。

僕も花を咲かせる人生的春の季節に入るところだ。その相手の花をもとめて悩んでいるのだ。満たされない心があるから、気持ちが暗くなるのか。

それが人生と言うものか。

気持ちが暗くなる